

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	館長補佐	係長	記録

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】
【会議名：糸魚川市博物館協議会 全体会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 令和元年6月30日

日	令和元年6月28日	時間	14:00 ~ 15:50	場所	フォッサマグナミュージアム 研修室
件名	<p>議題1 報告事項1～5 議題2 協議事項</p> <p>1 令和元年度博物館協議会の活動計画について 2 令和元年度博物館事業計画（業務係担当分）について 3 令和元年度博物館事業計画（学芸係担当分）について</p>				
出席者	<p>【出席者】7人 専門部会 梶座委員 天野委員 大塚委員 松岡委員 運営部会 山本委員 野本委員 中村委員</p> <p>【欠席者】3人 運営部会 柳委員、渡辺委員、赤野委員</p> <p>【事務局】6人 伊藤文化振興課長、竹之内館長、猪口館長補佐、茨木主査、池亀主査、小河原主事</p>				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0人

会議要旨

<p>1 開会 (14:00) 課長あいさつ</p> <p>2 会長、副会長の選任 委員の互選により、会長に柳委員、副会長に梶座委員を選任</p> <p>3 議題 (1) 報告事項 【事務局】 報告事項1～5を資料に基づき説明。</p> <p>質疑応答 【委員】 上越市で水族館が開館したが、案内は相互に行っているか。 【事務局】 ポスターを送付している。 【委員】 開館した影響は、あまりないようだが、もう少し宣伝をしてもよいのではないか。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

【事務局】 客層は、長野県の夏休みの海水浴客も多いと思うので、お互いに融通するようなことも必要かと思う。

【委員】 入館者数の変遷を見ていると9月と10月が多かったのは、宝石の国展の影響があったと思うが、2月が多かった理由は何か。

【事務局】 天皇陛下即位在位30周年記念無料入館で、1日で500人の入館があったことによる影響が大きかった。

【委員】 友の会の年齢層は、どのようになっているか。

【事務局】 友の会の中でも行事に参加している人、役員は高齢化していて若手で50歳代、行事参加の主力は、50歳代と60歳代となっている。

【委員】 会員は、だんだん減っていくのではないか。

【事務局】 友の会の会員自体は、200人から300人で推移している。新規会員もいるが、行事に積極的に参加してくれる方が高齢化しており、その方が減少している。

【委員】 石の鑑定サービスの現状は、大変なのか。

【事務局】 一昨年までは、毎日行っていて、昨年からは月・水・金を中止にして減少するかと思ったが、5,000人も増えている。

【委員】 有料化するの、どうなのか。

【事務局】 純粋に石が好きな人や子供たちのことを考えると、料金を徴収したくない。また、糸魚川の石は難しいものがたくさんあり、目視だけでは分からないことがある。

【委員】 ミュージアムでの書籍販売実績を記載していると思うが、ミュージアムで発行した本を新潟市内の書店で扱ってもらっている。ミュージアムの書籍は、他ではなかなか手に入らないので、販売実績があったようだ。

【事務局】 新潟市内での販売実績も、含まれている。記載方法については、検討させてもらう。

【委員】 活動の中でも最近増えてきているものは、何かあるか。

【事務局】 学校教育では、4年間位は60件前後で推移している。ここ数年では、市外校が糸魚川に一旦来ると、ずっと利用していただいているので、糸魚川での地学実習は教員の方、生徒も満足されている反映だと思う。

【委員】 外部からの依頼はどうか。

【事務局】 館主催以外では、50、60件で推移している。平成28年の99件は、依頼された講演のテーマを見ると、糸魚川大火の後で、大火系の防災の講演依頼とか、国石ヒスイの年でもあり、また、焼山の水蒸気爆発を受けての巡検など、そのような影響があったと思う。

(2) 協議事項

【事務局】 令和元年度博物館協議会の活動計画、令和元年度事業計画（業務係担当分・学芸係担当分）について資料に基づき説明。

(次ページへ)

質疑応答

【委員】 石のまち宣言とは、何をするのか。

【事務局】 シティプロモーションの一環で、糸魚川の石のことを全国にPRしようということで、例えばグッズを制作したり、ツアーを組んだりということを考えている。博物館では、石のガイドを養成したりして盛り上げようと考えている。

【委員】 議会に対しては、議決をとっているのか。

【事務局】 石のまち宣言の背景は、市内における取組の方向性がバラバラなことから、一つの大きな入口を作って統一感を生み出そうとした。石のまちは、ヒスイは他地域と差別化できるものであるが、ヒスイではイメージが堅いので、石のまちとした。議会議決は、得ていないが、委員会に報告して意見をいただいている。

【委員】 クラシックカーのイベントの記載があって、開催されると多くの入館者があると思うが、博物館活動と位置付けはどうなっているのか。

【事務局】 一番古いのは、クラシックカーレビューで市民会館の前庭で行っていた。噴水広場の有効利用のためミュージアムで開催されるようになった。博物館とクラシックカーの展示会のコラボみたいな感じとなっている。

【委員】 石のガイド養成講座は、市内に石の分かる人を一定数設けるということで良い取り組みだと思うが、8回のメニューはどのようなものか。

【事務局】 座学と実験の2つに分かれていて、同じ内容が4回となっている。座学は、学芸員から説明した後に海岸で石を採取し標本作製する。実験は、石を切った断面を見るなど実習的な要素を取り入れている。

【委員】 積み上げ的なことを想定していないのか。

【事務局】 石のガイドになるための講座で、座学と実習を1回ずつ受けないと試験を受けることができない。積み上げ式にすると1回でも参加できないと試験を受けることができない。来年からの上級講座は、積み上げ式で、もう少し複雑な内容とする予定である。

【委員】 ある程度見て分かることで、お客さんにガイドしても大丈夫という確認をするということでもあるのか。

【事務局】 最終的には、石の鑑定の補助をしてもらいたいが、石を分類するのは難しいので、今年は簡単な石を見分けられるようになってもらって、来年以降、複雑なものを見分けられるようにと考えている。

【委員】 友の会の方との関連はどうなっているのか。

【事務局】 友の会の方にも参加いただいて、石のガイドができるようになっていただければと考えている。

【委員】 マニアに教えること、市民に啓発すること、博物館の業務を分担することは、全く違う。分担をいうのであれば、お金をかけて講師を呼んで講義するなどが必要で、将来賃金を払うなどしないと中途半端である。業務分担をさせるなら、はっきりした線引きが必要である。

【事務局】 取り組みを進める中で、検討させてもらいたい。 (次ページへ)

【委員】 昨年、運営部会は開催されたが、専門部会は開催されなかった。運営部会の議事録を専門部会の方に送付するなど情報が共有できるようしたほうが良いのではないかと。

【事務局】 昨年度の運営委員会の会議内容は、専門部会に情報提供していないので、議事録を配布するなど対応したい。

【委員】 ここの学芸部門の仕事は膨大で、新しい学芸員が入っても難しい部分があると思う。出来れば研究員を設けてはどうか。退職者の方で再任用された後にでも関われば、拠り所にもなる。

【事務局】 是非、そのように考えていきたい。層を厚くしてバックアップしていくことが必要だと思う。

【委員】 特別展の解説書の進行状況はどうか。

【事務局】 内容は、「フォッサマグナってなんだろう」のようなものを予定している。出版時期は、特別展の開期に間に合うように発行したい。

【委員】 収蔵標本の保全活用について議論されているが、フォッサマグナミュージアムとしてはどのように考えているのか。

【事務局】 標本庫は手狭になっている。収蔵スペースでは、廃校に一部資料を置かせてもらうことが現実的であると思っている。研究資料の保管に時間を割けないというのが現状である。研究員制度みたいなものを設ければ、資料整理も進むと思っているが、時間を要すると考えている。

【委員】 誘客宣伝について、新聞への掲載、駅や図書館にチラシを出しても効果がない。一番効果があったのは、地域のコミュニティ雑誌である。見てもらえる場所に置かなければいけない。

【事務局】 コミュニティ雑誌にも投稿してみたいと思う。

4 その他

【委員】 この会議は、原案が決まったものの報告を受けているが、予算要求前などに専門部会で客観的に話をするのが良いのではないかと。来年、どのような取り組みをすべきか話をしたほうが良いのではないかと。

【事務局】 協議会の進め方について、検討させていただきたい。

5 閉会 (15:50)

館長あいさつ

以上